

	基本方針	第五期基本事業	項番	評価項目	目標値	実績			評価	特記事項
						R5年度	R6年度	R7年度		
1	府立図書館は、市町村立図書館を支援し、大阪府全域の図書館サービスを一層充実させます。	府域図書館情報ネットワークの活性化	1	情報ネットワークを活用して図書館実践事例を共有する取組回数	80	72	97	95	A	
2	府立図書館は、幅広い資料の収集・保存に努め、すべての府民が正確な情報・知識を得られるようサポートします。	レファレンスサービスの拡充と、所蔵資料を活用できる司書の育成	2-1	資料展示回数	110	134	145	155	S	
			2-2	パスファインダー新規作成・更新数	60	63	59	76	S	
			2-3	府立図書館職員向けレファレンス研修実施回数	8	8	10	9	A	
3	府立図書館は、府域の子どもが豊かに育つ読書環境づくりを進めるとともに、国際児童文学館の機能充実、資料の利用促進に努めます。	広域自治体の視点から学校等に対する支援を拡充し、府域の子どもの読書活動を推進	3-1	府立学校等向けの講座回数	10	16	17	16	S	
				講座の参加者満足度		90%	93%	95%	—	高校生のための図書館講座「LibCo」（101/106） ※ R7年度実施全4回参加者合計115名中106名
		国際児童文学館資料の利用促進	3-2	展示・イベント合計回数	12	14	15	16	S	
				イベント参加者満足度		95%	94%	96%	—	講演会と新刊紹介 2024年に出版された子どもの本（235/246）参加者満足度 R7：96%（会場、配信アンケート回答合計246人中235人が満足＝95.5%）
			3-3	SNS、HP等による所蔵資料や使い方の発信数	50	52	79	85	S	
4	府立図書館は、大阪の歴史と知の蓄積を確実に未来に伝えます。	地域資料の収集・保存と利活用	4	2025年日本国際博覧会関連資料の収受タイトル数	3年間で200点	66	125（2年間合計191）	1,240（3年間合計1,431）	S	3年間累積1431点 内訳：図書116点、新規雑誌18点、ポスター66点、チラシ・リーフレット類900点、CD/DVD2点、電子媒体126点、その他（登録外）203点
5	府立図書館は、府民に開かれた図書館として、地域の魅力に出会う「場」と機会を提供します。	府民の生涯学習、地域の情報拠点として地域の発展にも貢献し得るよう様々な事業を展開	5-1	関係機関との連携事業数	35	54	98	101	S	
				連携事業への参加者満足度		85%	82%	80%	—	学んですぐ実践！仕事力・経営力アップ講座（240/300）
			5-2	各種媒体に応じた情報発信（広報）	(i) デジタル3000 (ii) 紙媒体130	(i)3329 (ii)165	(i)3221 (ii)176	(i)2947 (ii)175	A	

(令和5年度の総括)	基本方針1	大阪府域図書館グループウェアを活用した新たな取組みの検討を上半期に行い、掲示板機能を活用した展示リストの共有（9月）、および注目の取組みを行った図書館へのインタビュー記事を掲載する「OPLニュース・インタビュー」（3月）を順次開始しました。次年度からは通年の取組みとして進めていく予定です。
	基本方針2	資料展示では、司馬遼太郎をはじめ池波正太郎、遠藤周作の生誕100年、現代の台湾文学、建築家コンドル、日本の近代建築、「食」を柱に戦前の食事、からだところなど、多様なテーマの所蔵資料を月替わりで紹介しました。こども資料室では、季節の行事や記念日に合わせたテーマで、1日単位から2、3か月単位と期間も違って常にいろんな本があることに興味を持てるよう努めました。また、書架から本を選ぶ楽しみのきっかけとなるよう、クイズイベントでのヒントを書架に隠すなど工夫をこらしました。 レファレンス研修は、国立国会図書館主催研修など中堅職員向けの研修にも参加し、館内での伝達研修により全体的なスキル向上に努めました。
	基本方針3	司書教諭・学校図書館司書、担当者を対象とした研修のほか、高校生のための図書館講座「LibCo（りぶこ）」は4校に対し実施しました。スクールサービスデイ以外にも、探究学習利用にも対応しました。国際児童文学館の利用方法や複写の混雑状況等をホームページやX（旧Twitter）で案内するなど、利用についての広報内容を工夫しました。
	基本方針4	博覧会協会や関連機関に依頼して、図書11点、ポスターやリーフレット等55点を収受しましたが、電子媒体での広報誌等が発行されておらず、動画やイベント実施時の周知が主となっており、記録としてはこれからかと思われます。6年度は、開催1年前ということでさらに働きかけていくこととします。
	基本方針5	中之島図書館では、中小企業診断士会とのビジネスセミナー、契約しているデータベース会社から講師を派遣していただき「オンラインDBセミナー」を実施し、より一層資料を活用していただく機会となったと考えています。 中央図書館では、連続講演会(前期・後期)、読書週間記念講演会等を開催しました。イベント開催に際しては、X（旧Twitter）やメールマガジン、ホームページでも広報するほか、連携先のSNS等での広報も協力いただきました。
(令和6年度の総括)	基本方針1	図書館関連の情報をとりまとめて府域市町村図書館に向けて毎週発信している「OPLニュース・ピックアップ」は、今年度も着実に配信を行い、3月に通算300号に到達しました。 大阪府域図書館グループウェアを活用した取組みでは、昨年度開始した展示リストの共有、注目の図書館への「OPLニュース・インタビュー」を継続する一方、掲示板機能を活用した「みんなの質問箱」においても市町村間の情報共有が見られました。
	基本方針2	阪神間鉄道開業150周年にちなんだ企画展示を行ったほか、エリアスタディーズ、フランツ・カフカやサン＝テグジュペリ、竹久夢二、日本各地の民話など、多彩なテーマの展示を行いました。 こども資料室では、引き続き季節の行事や記念日に合わせたテーマで、1日単位から数か月単位まで期間も様々に設定し、いつでもいろいろな本に興味を持っていただけるよう努めました。各展示において、多言語資料をあわせて展示し、多様な言語で読書が楽しめることも伝えるようにしました。 レファレンス研修は、昨年度同様、国立国会図書館主催研修などの中堅職員向け研修に参加し、受講後は館内で伝達研修を行うことで、館全体のスキルアップに努めました。
	基本方針3	国際児童文学館では、さまざまな資料に出会える機会として、小展示を紹介するページを作成し、イベントや各展示も積極的にX（旧Twitter）やホームページにて広報しました。
	基本方針4	万博資料収集では、大阪商工会議所・関西経済同友会へ訪問し協力を依頼しました（9月）。図書館HPに企業向け寄贈依頼ページを公開しました（10月）。また、関西経済連合会発行の会員向け雑誌、大阪商工会議所会員向けメールおよび関西経済同友会メールマガジンに記事を掲載していただきました。その他、大阪商工会議所に府立図書館宛寄贈BOXを設置していただき、毎月訪問して資料を回収しています。今後は出展国・団体にも個別にアプローチしていきます。
	基本方針5	中之島図書館では、継続実施しているビジネスセミナー等のほか、日本政策金融公庫と連携した起業セミナーや、府内の行政書士法人と連携した起業相談会など、起業にフォーカスした催しを開催しました。また、将棋に造詣の深い藤澤桓夫の特別展では、将棋の町高槻との連携も行いました。 中央図書館では、連続講演会のほか、百舌鳥・古市古墳群関係3市による世界文化遺産登録5周年記念講演会等を開催しました。イベント開催に際しては、X（旧Twitter）やメールマガジン、ホームページでも広報するほか、連携先のSNS等での広報も協力いただきました。

（令和7年度の総括）	基本方針1	毎週配信している「0PLニュース・ピックアップ」に加え、展示リストの共有、「0PLニュース・インタビュー」等を継続して発信し、府域市町村図書館における大阪府域図書館グループウェアの活用促進に努めました。アンケートおよび掲示板機能を活用した市町村間の情報共有が見られました。
	基本方針2	万博に関する企画展示を実施したほか、隣接地で開催されたサーカスに関する展示やゲーム産業、デフリンピック、アジアSF、ファッションなど様々なテーマで展示を行いました。こども資料室の展示では、季節の行事や記念日に合わせたテーマの各展示において、多言語資料をあわせて展示することを積極的におこない、多様な言語で読書が楽しめることを伝えるようにしました。 パスファインダーは昨年度目標に1つ足りなかったことを受け、R7は確実に新規作成、更新を行いました。 レファレンス研修では、館を代表して参加した研修の伝達や、勤務年数の少ない職員に向けてのノウハウ継承の研修も実施することができました。
	基本方針3	司書教諭・学校図書館司書、担当者を対象とした研修のほか、高校生のための図書館講座「LibCo（りぶこ）」を4校に対し実施し、高い満足度を得ました。 国際児童文学館では、さまざまな資料に出会える機会として、企画展示や小展示のほか、追悼展なども随時行いました。特別研究者による講演会も実施、イベントや各展示の広報は積極的にX（旧Twitter）やホームページ、Instagramを活用しておこないました。こちらも高い満足度を得ることができました。
	基本方針4	万博資料収集では、万博開催年の今年度は特に積極的な収集に努めました。具体的には、会期中会場現地での資料収集、未収集ポスターを寄贈依頼、大阪府庁・府立図書館両館・大阪府域図書館職員へ協力依頼、大阪ウィークスタッフとして万博出張時の収集、個別パビリオンへ訪問による寄贈依頼、閉会後に大阪府・大阪市万博推進局へ協力依頼などを行い、目標を大きく上回ることができました。
	基本方針5	中之島図書館では、各種ビジネスセミナーなど外部機関・団体との連携事業を継続するとともに、資格セミナーでは従来実施してきた「キャリアコンサルタント」に加えて「産業カウンセラー」もとりあげるなど、新たな取り組みも行いました。 中央図書館では、生涯学習関連事業としてシルクロードに関する連続講演会のほか、再犯防止に関する講演会、田辺聖子文学館ツアー等を開催しました。イベント開催に際しては、X（旧Twitter）やメールマガジン、ホームページでも広報するほか、連携先のSNS等での広報も協力いただきました。

【評価の基準について】

各評価項目については、S（優良）、A（良好）、B（ほぼ良好）、C（要改善）の4段階で評価する。
数値目標の項目は毎年の達成率により評価し、最終年度に目標達成とする項目については、毎年度の進捗状況により評価する。

- （1）毎年の数値目標がある場合（評価項目1、2－1・2・3、3－1・2・3、5－1）
S：数値目標を大きく上回る成果を達成 120%以上
A：数値目標を達成もしくは上回った 100%以上120%未満
B：数値目標をやや下回った 80%以上100%未満
C：改善が必要 80%未満
- （2）3年間で目標達成の場合（評価項目4）
1～2年目の評価
S：3年間の数値目標を大きく上回ることが予測される
A：3年間の数値目標を上回るペースで順調に進捗
B：最終年度の数値目標達成が予測される
C：改善が必要
※3年目（最終年度）の評価は、（1）の基準に準ずる
- （3）評価項目に複数の数値目標がある場合（評価項目5－2）
（1）の評価基準を点数化 S（4点）、A（3点）、B（2点）、C（1点）し、評価項目中の点数の平均点により評価する。
平均点 4～3.5・・・S / 3.4～2.5・・・A / 2.4～1.5・・・B / 1.4～1・・・C

*評価項目3－1・2、5－1の満足度については、アウトカム評価の参考値とし、4段階での評価は行わない。